

臨終から葬儀までの順序（遺族用）

● 危篤

1. 家族、親戚、友人、知人等合わせたい人に至急連絡
2. 末期の水（まっごのみず）をとらせる（脱脂綿等で唇を湿らせます）

● 臨終

1. 葬儀社に連絡する（さくら葬祭は、年中無休、24時間体制）電話0294-43-3430
2. 死亡診断書を医師に書いてもらう（搬送車で移送いたします）
3. 遺体を清めて死化粧をし、北枕に安置する（場所がない場合は西枕）
4. 葬儀日どりを決める。通夜僧侶の打ち合わせ、親戚その他に知らせる
5. 町内、班長に連絡（お手伝いを受けるかどうか？）
※病院、施設等で死亡した場合、さくら葬祭では、日時を問わず寝台車で搬送いたします



● 通夜と葬儀の準備

1. 神棚の扉を閉めて半紙を張る
2. 遺影の準備（ピントの合ったもので顔の大きいものが良い）
3. 葬儀社との相談（祭壇、礼状、香典返し、生花、弁当、料理等の手配、その他）
4. 弔辞を依頼しておく（葬儀の規模が大きい場合など）
5. 弔電をまとめておく（読みやすく）
6. 遺体のそばについて弔問客の対応をする



● 納棺

近親者で納棺し祭壇に安置する（最近ではおくりびと（女性納棺師が旅支度）をお願いする人が多い）

● 通夜

◎通夜式次第

- ①一同着席 ②僧侶入席 ③読経 ④焼香 ⑤僧侶退席 ⑥喪主あいさつ（裏参照）
1. 読経後焼香する（故人に近い順）
2. 弔問客に飲食茶菓子の接待（親戚のみか一般の方も招くか決めておく）



● 葬儀告別式

1. 席順を決める。
2. 告別式で参列者に礼をする（立礼）
3. お別れ（生前、故人が愛用していた物および花、メッセージカード等）
※入れてはならないもの（ガラス、プラスチック及び金属類、厚い本、ドライアイス、水分の多いもの）



● 出棺

1. 喪主は位牌、骨箱、写真、御膳を遺族が持つ
2. 喪主又は親族代表は会葬者に挨拶する
①会葬に対するお礼の言葉
②生前の厚誼に対する感謝
③今後の遺族に対する交流のお願い等



● 火葬と遺骨を迎える

1. 納めの式を行う（合掌）（拝礼）
2. 2人1組で骨あげをする
3. 分骨するときは分骨かめを用意して、前日までに担当者へ申し出る
4. 位牌と遺骨・写真を持ち帰る
5. 遺骨が家に戻ったら合掌し焼香する



● 精進落とし

精進上げ、忌中払いともいう。

1. 喪主遺族が末席につきお礼の挨拶をする
2. 献杯（けんぱい）のご発声をお願いする方を決めておく（故人を悼み、葬儀の時および法事の席で盃を捧げること）
3. 事務引継ぎをすませる



葬儀について

■ 末期の水（まっごのみず）とは？

医者から臨終を告げられたら、遺族や近親者は、故人がこの世で口にする最後の水を含ませてあげます。これを末期の水、または、死水（しにみず）といいます。「これは一種の儀式で故人と血縁深い肉親が順に行う」（最近では、病院で行う事が多いようです）



■ 遺体の安置と枕経とは？

布団は「北枕」または「西枕」に遺体を寝かせます。手を胸元で合掌させ、数珠を持たせ、顔には白布をかけます。そして、「守刀」として（小刀、カミソリ、ハサミ等）を枕元か遺体の両手あたりの布団の上に置きます。「枕かざり」（ローソク、線香、一本花お供え等簡単に飾りつけたもの）をして、初めて僧侶に読経してもらいます。これを「まくら経」といい故人を成仏させる大切なお経です。※宗派により行わない場合もあります。

■ 湯かんとは？

亡くなると、まず遺体を清めてあげます。これを湯かんといってたらいにぬるま湯（さかさ水）を入れ、遺体を清めます。最近では、ガーゼか脱脂綿をアルコールにひたし体を清めます。故人が男性ならひげをそり、女性ならば薄化粧をしてさしあげます。



最近ではおくりびと（女性納棺師が旅支度）をお願いする人が多い

■ 経帷子（きょうかたびら）とは？

遺体を清めたら衣服を着替えさせます。紋服、白むくか故人が生前好んでいた着物を着せるのが普通です。最近では、葬儀社に用意されている”仏衣”を上からかけるだけというのが多いようです。着付で気をつけなければならないことは、普段とは逆の合わせ方、すなわち左側に着せます。



■ 供物・供花の心得とは？

長持ちするものを選ぶことが大切です。ただし、個人として贈る供花は、生花のほうが弔意をより深く伝える、とされています。



■ お葬式の後には？

仏壇がない家庭で初めて霊骨を迎えた場合は、和室で床の間のある家は三段か五段の壇を作り、白布をかぶせて清らかにします。また、床の間のない家は仏様（霊骨）が北を背にして南を向くように、又は西を背にして東を向くように安置します。

■ お供え物とは？

一般には五供（ごこう）といって香（こう）・花（け）・灯（あかり）・浄水（じょうすい）・飲食（おんじき）を供えます。

1. 香とは、線香と抹香の事をいい、真中に線香を立てる香炉をおき、その前に線香用の香炉をおきます。
2. 花と灯は「左灯右花」といって仏さまから見て左にローソク立て、右に花立てをおき花を飾ります。
3. 浄水はきれいなお水を清潔な湯呑みに入れてお供えします。（仏壇には専用のものを備えます）
4. 飲食は、お霊供膳ともいい、ご飯、お汁、と坪、平、皿に精進料理のご飯だけでもまつります。
5. この他お菓子や果物をそなえる高杯や三方があれば使用し、なければ白紙をしいてお供えします。
6. また、リン（小磬）等はぜひ備えておくべきでしょう。そしてできるだけ、早い機会に仏壇を求めて忌明けには葬式の白木の位牌は納骨とともにおさめ、別に本位牌を作って仏壇に安置します。季節の花を飾り毎朝お水をお茶を捧げ心をこめておまいりしましょう。※枕飾りは、さくら葬祭でご準備しております。

■ 葬儀のあとかたづけは？

◎事務引き継ぎ

弔問客の名簿・供物や香典の控え帳・弔辞や弔電のつづり・会計の精算・領収書などを確認します。

◎挨拶とお礼

初七日がすみ、一段落したところで喪主は、葬儀の際お世話になった方々へ、初七日の志としてお礼に伺います。

◎支払い

葬儀社をはじめ、寺院、病院など臨終から葬儀まで関わったところへ支払いもれがないか確認します。

◎香典返し

香典返しは通常、半返しといわれています。しかしいただいた方の金額に応じて一人一人用意するのは、大変ですから、地方にもよりますが最近では金額による、お返し品の差をつけずに同じお品をお返しすることが一般的です。又お返し品の金額も2,000～4,000円くらいの品物を用意することが多いようです。